

# 経営学に最先端の情報技術を適用し価値創出に資する研究



鈴木 貴之  
スズキ タカユキ

経済経営  
経営  
講師

## 主な研究業績

ニューラルネットワークによるイノベーションを牽引する日米企業間の戦略比較  
顧客満足度に与える影響要因の同定  
アメリカ企業の研究開発投資及び設備投資と収益性の定量分析

## 研究キーワード

イノベーション  
自然言語処理

マーケティング  
AI

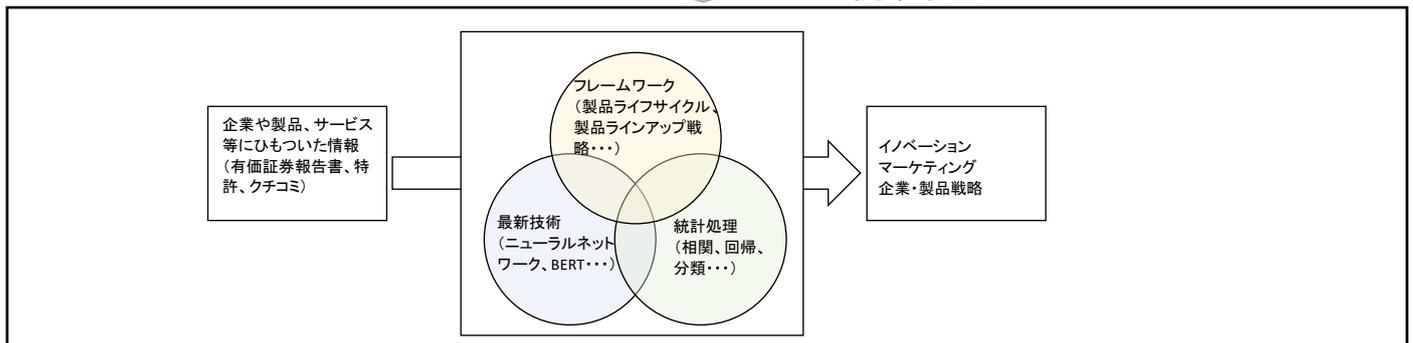
企業・製品戦略

## 研究の概要

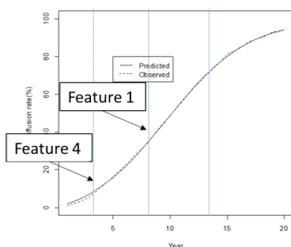
最先端の情報技術の適用及び既存のビジネスフレームワークの活用により、価値創出に新たな知見を与え経営戦略に適用する研究を行っています。

具体的には、①顧客満足度の推定②製品特性と製品ライフサイクルの関係性③日本企業とアメリカ企業の戦略比較などが研究対象です。

## 提案手法



## 結果



家電製品の場合、時間の経過と共に製品機能のニーズは変化し、新しい製品機能が出現すると、製品ライフサイクルの期が成熟期から衰退期へ変化する。

日本企業のキーワード	米国企業のキーワード
foundation (基盤)	foundation (基盤)
co-creation (共創)	inflammation (炎症)
industrialization (事業化)	integration (統合)
visualization (可視化)	sterilization (殺菌)
next-generation (次世代)	innovator (イノベーター)

日本企業のイノベーション戦略は、オープンイノベーションの推進であり、アメリカ企業は、ハード・ソフトウェア、デジタルコンテンツ等を統合したサービスの提供である。

## 共同研究へのニーズ

- ・従来の研究では、公開文書を対象に分析を行ってきました。今後は、企業内で実施したアンケート調査の結果や経営者の講演録などの公開文書以外も対象にしていきたいと考えています。
- ・今まで、企業の方に授業に来ていただき、企業の方が実際に抱えている課題を学生目線で解決策を提示する取り組みも行ってきました。